

## 「キリストについていく」 ～あなたは誰の十字架を負っているか～

マルコ15：20～24

私たちは毎日どのように歩んでいるでしょうか。良いことをする時は何かに強制されてしているでしょうか。それとも自発的にしているでしょうか。今回の聖書箇所ではクレネ人シモンのところでした。彼は息子たちとエルサレムに過ぎ越しのいけにえを捧げにきていました。その時ちょうどイエスを十字架につける時でした。しかしクレネ人シモンはイエスの十字架を見にエルサレムへやってきたのではありませんでした。しかし彼はローマ兵に見出されて無理やり十字架を背負わされました。マタイ、ルカにもクレネ人の記事は書かれていますが、マルコのように詳細に名前などは書かれていません。彼は背負わされ、ゴルゴタの丘を登っていきました。イエスの代わりに背負ったことを見ていた人は理解していますが、その他の大勢の人の目にはクレネ人シモンは死刑囚と間違えられ、恥ずかしい思いをしたのではないかと思います。ではまずクレネとはどこでしょうか。クレネとは北アフリカにあり、黒人として差別されていた地でした。(マタイ16：24)『それから、イエスは弟子たちに言われた。「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。』この言葉は12弟子の1人であったペテロが十字架にかかる前に言われていたにも関わらず逃げてしまったため、田舎出身のクレネ人が変わりに背負うようになったのでした。十字架の後、クレネ人シモンはどのように歩んでいたのかは不明です。しかし聖書に書かれている箇所をつなげてみると彼の歩みを垣間見ることができます。クレネ人は最初、十字架を無理矢理背負わされたのですが、最後は自らでついていく人になっていました。彼の心は変わっていったのです。使徒の働き13章にはニゲルと呼ばれるシメオンと書かれています。ニゲルとは黒人を意味していますので、黒人のシメオンとはクレネ人シメオンと同一人物であろうとされています。またクレネ人ルキオが登場してきますが、同郷の人も重要な指導者として召されていました。またローマ16:13には「ルポス」という名が記されています。クレネ人シモンの子どもと同一人物だとすれば、クレネ人シモンは家族みんなが救われ、主の働きに召されていったということになります。彼は十字架を背負った時、イエスキリストが私たちの罪をすべて背負われたことを知り、自分は周りにいる人々のために働いていこうと思い、同胞を救いに導き、パウロの働きを支える人になっていったのでした。創世記にでてくるヤコブの息子たちである12部族にもシメオンが出てきます。しかしこの部族は主に従うことができず、ユダ族に吸収されてしまいました。同じようにシモンとつく名の人は聖書の中で多くの失敗をします。しかし主は必ず立ち上がらせて下さるのです。ペテロもイエス様に出会う前はシモンと呼ばれていました。シモンとはシメオンを短くした名です。ペテロもイエスを裏切るなどどん底を経験しましたが、悔い改めてもう一度立ち上がり主のために歩んだのでした。①**フィレオーからアガペーで背負う。**ペテロも最初はフィレオーの愛で愛するとしか応えることができませんでした。しかしその後の歩みを見ていきますと、アガペーの愛を実践していることが分かります。フィレオーの愛しか経験したことのない私たちはアガペーの愛とはどういうものなのか最初は分かりません。しかしイエス様について聞いたり、御言葉を読んだりしていくうちに段々と理解することができます。そしてアガペーの愛を実行するようになっていくのです。そのためにはイエス様についていくしかないのです。ついていかなければ理解することはできません。イエス様から離れていてはアガペーの愛を実践することはできません。自分のルールや経験したことの範囲で生きていこうとするならば、ついていくことにはなりません。2000年前もイエス様についていこうとせず、伝統、伝承から離れることができなかつた人(パリサイ人、律法学者たちなど)がいました。②**水一杯でも差し出すことを忘れてはいけない!**ということ。(マルコ10：38～41)義人とは私たちのことですが、私たちは素直に受け入れることはできない人もいます。しかし私たちは罪人と決め付けられるもの嫌なものです。私たちはかつては罪人でしたが、イエス様にあつて義人となり、今度は水を差し出す人になれるのです。ここで重要なことは自分のルールを捨てるということです。聖書には自分を捨て、自分の十字架を負って生きていくことが言われています。自分を捨てるということが自分のルールを捨てることになるのです。今までも語られてきましたが、人間的標準を捨てなければいけません。そして私たちの良心によって判断していく時に邪魔するものが周りからの声です。私たちは自分自身で周りの方々に持っているものを差し出していけるようになったのではありません。イエス様ができるようにしてくれました。そのことを知っているのであれば、どのような状況になつたとしても私たちは水一杯でも差し出していきましょう。③**気づくとあなたの重荷はなくなっている!!**のです。「神の国とその義とをまず第一に求めなさい。」という御言葉がありますが、まさにこのことをしていくと私たちの悩み、苦しみが自然となくなっているのが分かります。神様はこの世のすべてのものを治めておられるお方です。野の鳥や花にいたるものすべてです。ですから、神の国とその義とを第一にしようとしている私たちを見捨てたり、離れたりするようなことはしないのです。私たちは互いに負い合っているのです。そのために教会があるのです。そして私たちを通して神様についていく人が現れるためなのです。ですからまず私たちがイエス様についていくようになります。ついていきさえすれば、そこで変化が起きるのです。フィレオーの愛からアガペーの愛へ変化し、周りの人に水一杯でも差し出せるようになり、私たちに与えられた神の計画が成し遂げられていくのです。多くの実を結ぶ人生となるためのスタートを切りましょう!(要約者：平澤 一浩)